

「青少年育成吉舎町民会議」の活動を見学しました

2026年8月5日（水）に、三次市吉舎町の広島県立日彰館高等学校多目的教室で実施された青少年育成吉舎町民会議の活動「きさ学び舎ぐるぐる」を見学しました。



「きさ学び舎ぐるぐる」は、夏休み中の小中学生が宿題や自主学習を持ち寄り、地元の日彰館高校の生徒が学習をサポートし、その様子を団体のボランティアスタッフが見守る活動です。「教える人」「教えられる人」という関係を通じて、世代を超えたつながりを育むコミュニティづくりを目指しておられます。

この活動は、2025年夏に日彰館高校の生徒たちが吉舎小学校・吉舎中学校の児童生徒を対象に開いた学習教室がきっかけとなりました。小中学生から好評を得たことに加え、高校生にとっても将来の進路を考える貴重な経験となったことから、青少年育成吉舎町民会議が活動の意義に共感し、地域全体で支えながら継続する取り組みとして引き継がれたそうです。活動場所となっている日彰館高校の多目的教室は普段から地域に開放されており、地域活動の拠点としても大変恵まれた環境だと感じました。

「ぐるぐる」という名称には、学びが人から人へと循環し、その輪が地域全体へ広がっていくようにという思いが込められているそうです。今回の見学を通じて、若者の居場所づくりだけでなく、世代を超えて学び合い支え合う「学びの循環型コミュニティ」を目指す温かな取り組みであることがよく伝わってきました。

活動は夏休み期間中に全6回実施されるそうで、見学した日は



3 回目の開催日でした。この日は参加者が最も多い回とのこと。会場には小学生 20 名と高校生ボランティア 6 名が集まっていました。会長の白附さんによる挨拶の後、子どもたちは持参したワークブックを広げて学習を開始しました。算数や国語、理科、社会など内容はさまざまです。高校生ボランティアは困っている子どもにそっと声を掛け、答えを教えるのではなく、解き方のヒントを示したり、一緒に考えたりして寄り添っていました。その姿に子どもたちも徐々に打ち解け、静かだった会場にも、勉強の質問やちょっとした雑談など、和やかな会話が広がっていました。

45 分ほど学習した後は、スタッフによるレクリエーションの時間です。「勉強が進んでいる人」「ちょっと進んでいない人」といった問いかけから始まりました。高校生がちょっと進んでいないこととして、受験勉強や面接練習について小学生にも分かるよう説明する場面もありました。高校生たちが自分の言葉で分かりやすく伝える姿はとても頼もしく感じられました。自己紹介や手遊びの後は、フルーツバスケットで大盛り上がり。「靴下の色が黒い人」「紫色が好きな人」などのお題に合わせて席を移動し、子どもも高校生もスタッフも一緒になって楽しんでいました。特に印象的だったのは、最後の椅子を二人が同時に狙った際、自然とじゃんけんで解決していたことです。その姿を見て、「なんて平和的な解決方法を自分たちで選ぶのだろう」と思わず感心してしまいました。また、ゲームの前にスタッフから「今日は人数が多いから、走らず歩いて移動しようね」と声掛けがあったのですが、子どもたちはその約束をしっかりと守っていました。高校生ボランティアの皆さんが、落ち着いて行動する姿を見ていたからこそ、自然とそうした行動につながったのかもしれない。

レクリエーション後は再び学習の時間。子どもたちは集中してワークブックに向かい、時には子ども同士で教え合う姿も見られました。予定時間の 2 時間が経過したところで、活動が終了しました。



勉強を教える、教わるという関係だけではなく、一緒に遊び、会話し、時間を共有する。そんな関わりを通じて、学びだけでなく人とのつながりも育まれていることを実感。世代を超えた交流の魅力が随所に感じられる、とても温かい時間でした。

最後に、参加した小学生や高校生の皆さんに感想を聞いてみましたので、ご紹介しますね。

(本郷)

＜小学生＞

- ・みんながわかりやすく教えてくれたので、勉強がはかどった。
- ・高校生に会ってとても楽しかったし、優しく教えてもらって嬉しかった。
- ・お兄さんと同じ高校に入りたい。
- ・自分も大きくなったら小学生に教えてあげたい。

＜高校生＞

- ・初めてボランティアに参加した。小学生と触れ合う機会はめったにないので、とても楽しかった。
- ・小学生にわかりやすく教えるのは大変だけど、コツコツ取り組んでいる姿を見て、参加してよかったと思った。これからも参加したい。